

特集

3.16 北陸新幹線

福井開業の日～新たな門出の1日に密着～



2024年3月16日は福井県史に残る歴史的な1日となった。構想から約半世紀を経て県民の悲願であった北陸新幹線の県内開業が実現。開業当日、福井駅周辺では1番列車入線に合わせた開業式典から始まり、様々なイベントが催され類を見ない人出となった。今回は、開業当日の様子を時系列で振り返る。

【表1】北陸新幹線の経緯

- 昭和45年 5月 全国新幹線鉄道整備法公布
- 昭和47年 6月 基本計画決定
- 昭和48年 11月 整備計画決定及び建設の指示
- 昭和57年 3月 高崎～南越間の駅・ルート概要公表
- 昭和60年 12月 高崎～小松間の工事実施計画認可申請
- 昭和63年 8月 北陸新幹線の最優先着工が決定
- 平成元年 8月 高崎～軽井沢間の着工
- 平成3年 9月 軽井沢～長野間の着工
- 平成4年 8月 石動～金沢間の着工
- 平成5年 4月 北陸新幹線早期実現福井大会開催
- 平成5年 10月 糸魚川～魚津間着工
- 平成8年 3月 南越(仮称)～敦賀間のルート公表
小松～南越間の工事実施計画認可申請
- 平成9年10月 高崎～長野間が開業**
- 平成10年 3月 長野～上越間着工
- 平成13年 5月 上越～富山間着工
- 平成17年 6月 富山～金沢間、福井駅部着工
- 平成24年 8月 金沢～敦賀間着工
- 平成27年3月 長野～金沢間開業**
- 令和6年3月16日 金沢～敦賀開業**

北陸新幹線の 福井県内開業について

まずは、北陸新幹線県内開業までの道のりを改めて振り返っていきましょう。北陸新幹線の構想が具現化したのは昭和45年(1970年)。ルート選定や工事着工などを経ながら、約50年をかけて県内への延伸が実現した。その間、福井商工会議所では、様々な議論や要望活動を重ね、延伸に向けた取り組みを活かすことになった。構想から延伸までの経緯は表1の通りである。

また、延伸に向けた取り組みを活かすことになった。構想から延伸までの経緯は表1の通りである。

る。より詳しい経緯や北陸新幹線延伸による経済効果などについては本誌、2024年新年号並びに2月号の特集で掲載しているのをご覧いただきたい。

大きな期待を集めながらも、非常に長い年月をかけた、3月16日、ついに開業を迎えた。当日は、北陸新幹線の開業式やウエルカムイベントなどが県内の各駅で行われたが、今回の特集では、福井駅周辺の開業日の一日を写真と共に振り返りつつ、県民や新幹線利用者、駅周辺事業者の声を紹介する。

5:25



開業式・出発式

開業日は雲一つない快晴に恵まれた。夜明け前から福井駅には多くの人々が押し寄せ、新幹線の到着を今か今かと待ちわびていた。

歴史的な一日の始まりに、まずは福井駅で開業式・出発式が執り行われた。八木会頭を始め、県選出の国會議員や国・自治体の要人、鉄道関係者などが出席した。



6:32



かがやき502号 入線

開業第1号となる敦賀発東京行のかがやき502号が福井駅のホームに入線。ホームには入線時間が近づくとつれ、さらに多くの人々が集まりその時を迎えた。4分後には反対ホームに金沢発敦賀行のつるぎ1号が入線し、51年間待ちわびた県民の期待を表すかのようにホームは熱気を帯びていた。



多くの人々がホームで新幹線の到着を待ちわびる



乗降を終え出発する新幹線に手を振って見送る人々

8:30



くるふ福井駅開業

福井駅構内のショッピングセンター「くるふ福井駅」も開業に併せてオープン。同地にて営業していた



多くの人々がオープンを歓迎し、入場列は外まで続いた



8:30



新幹線改札前にて

福井駅には上下線合わせて毎時6本前後の新幹線が発着。開業当日は、新幹線を利用して旅立つ人を見送るとともに、福井駅へ降り立った人々を改札前で多くの県民が迎えた。

「プリズム福井」を受け継ぎ、フロアは大きくリニューアルされた。土産物屋から飲食店、日用雑貨までバリエーションに富んだ44店舗が立ち並び、県内外客問わず楽しめる施設となっている。当日のオープン前には既に長蛇の列が駅の外まで延び、一日中入場列が続くほどの盛況ぶりであった。

人々の声

福井駅構内にて

改札前には多くの人々が集まり、出迎えた



当所職員もいちほまれなど福井の特産品を来県者に配布



新幹線で来県。移動はあつという間に感じた。恐竜博物館へ行こうと思っっている。

(長野県・親子)



これから親子で東京へ。テーマパークなどを楽しむ予定。新幹線で気軽に行けるようになった。

(福井市・親子)



9:00



ウェルカムフェスタ

北陸新幹線の開業を記念したイベ

ントが多数催され、ハピテラスや福井市中央公園などではウエルカムイベントが開催された。オープニングとして鏡開きや、和太鼓パフォーマンス、県内各自治体のPRといったステージイベントや各種物販、ワークショップなどが行われ、多くの方が楽しむ様子が見られた。



ハピテラス会場

中央公園会場

人々の声

ハピテラスにて

開業前日に最終のサンダーボードで来県。大阪から乗継必須になるのは残念。10年ぶりに福井駅に降りたが、あまりの変貌ぶりに驚いた。

(大阪府・女性)



駅前が大きく変わり、まるで他県に来たような印象。若者も楽しめるお店ができて、より複合的な街になるとよい。県民は自信をもっておもてなしして欲しい。

(坂井市・女性)



80代になり、楽しみが少なくなっているが、夫婦で新幹線に乗るという楽しみができた。前向きに希望ももてるようになり、きっと他の人も楽しみができたと思うので、新幹線の力はすごいと思う。

(福井市・女性)



ビルが新しくなったり、いろんな部分が変わって福井が変わった印象を受ける。県外から人がたくさん来て、福井を楽しんでもらえたらうれしい。自分も長野などあまり行ったことがないところに行きたい。

(福井市・女性)



福井市中央公園にて

11:00
ふくまちブロック
開業

福井駅前の通称三角地帯には、フードホール「M₁ N₁ E₁」、コートヤード・バイ・マリOTT福井、スポーツジムなどが入る複合施設「ふくまちブロック」が誕生。16日には一部が先行開業した。オープンに併せて行列ができ、大きな盛り上がりを見せた。県外客の利用のみならず、県民のランチやデイナー、運動など憩いの場としての利用が期待され、駅前に訪れる目的の一つになるだろう。



13:00
ブルーインパルス
記念飛行

北陸新幹線延伸開業を記念して、航空自衛隊「ブルーインパルス」による祝賀飛行が行われた。開業した芦原温泉駅から敦賀駅間を飛行後、福井駅上空にて演目飛行が行われた。福井駅から足羽河原にかけて、類を見ないほどの人出が見られた。



6機のブルーインパルスが福井開業に花を添えた



あまりの人の多さに足羽河原では移動規制もかけられていた

15:45
万寿くばり
(ハピテラス)

福井商工会議所では、食料品部会(安田泰三部会長)が県内の菓子事業者で構成する『福和会』とともに、福井におけるお祝い事の伝統である

「万寿くばり」をウェルカムフェスタの催しの一つとして、中央公園とハピテラスの2カ所で開催。県内で作られたまんじゅうやお菓子の他、かつおぶしなどの縁起物が来場者に配られ、2カ所合わせて約1,600名が訪れた。ハピテラスで行われた万寿くばりは、16日に開催された歓迎イベントのフィナーレを飾った。



県内の菓子製造・販売会社の代表者がまんじゅうを手渡した



大きな盛り上がりを見せた福井県内。この日を迎えて、個々人が様々な思いや期待を感じたことだろう。この延伸開業にかける期待は事業者間にも広がっており、活発な動きが進んでいる。新幹線開業に併せて事業を拡げ、まちを盛り上げていくプレイヤーに話を伺った。

事業者の声 1



OUR BREWING(同)
岡田 朋大氏

福井生まれのクラフトビールの製造販売を手掛けるOUR BREWING(同)は、新幹線開業に併せてふくまちブロック内のフードホールMINEEにブルワリーをオープン。ブルワリーでは、県内産のものを中心に8種類のクラフトビールを提供。立ち飲みスタイルの店頭裏には、醸造設備が立ち並んでおり、出来立てのビールを味わうことが出来る。

開業日当日を迎えて

代表社員を務める岡田氏は開業を振り返り、開業日の土日はもちろん、週明けの平日にも予想以上に多くの人に来店してもらえたと語る。プレオープン日の14日と16、17日の3日

間で約2,000名が来店。駅前から日中から気軽にビールを楽しめる場所があるのはうれしいなど、歓迎の声を多く聞くことが出来た。

今後に向けた期待と抱負

多くの人で賑わい、「福井じゃないみたい」という声を聞き、岡田氏は、駅前には人が少ない、といった福井のイメージを覆したいと感じたという。県都福井の玄関口で、醸造所を構え、地ビールを作っているという自分たちにはしかない特徴を活かし、醸造施設の見学や施設内の店舗同士でのコラボなどを企画し、継続的に集客できるコンテンツとして磨いていきたいと語る。

事業者の声 2



あみだそば
永見 耕己氏

福井駅前に店舗を構える「あみだそば」を運営する永見耕己氏に話を伺った。同店はハピリン(福の井店)、ふくまちブロック(遊歩庵店)、ガレリア元町(はなれ店※4月中オープン)の3店舗を展開。福井の食を代表するおろしそばをメインに取り扱う。

開業日当日を迎えて

永見氏は「開業初日は多忙を極めたが、福井が変わる瞬間に立ち会えて良かった。開業日以降、夜の人が明らかに増え、夜10時の駅前に人が多く行き交うなど、以前では考えられない風景だ」と驚きを見せる。

今後に向けた期待と抱負

永見氏は「新幹線で駅前は変わると言うが、すでに変わっている。今、駅前にいる事業者は新幹線開業に併せて新事業展開するなど、福井で最もパワーのある人達だ。勢いがあるうちに、形になるものを残したい」と意気込む。最後に、「県内外の人が不自由なく楽しめ、また来たいと思えるまちづくりを目指し、商品やサービスを追求していく」と締めくくった。